

【 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

コメント

子どもを集団として見るのではなく、子どもの今の姿に合わせて情報を共有しながら保育を組み立てている。子育て支援センターの機能を生かして、地域の子育て家庭への支援が充実している。在園児の保護者に対しても保育の可視化に努め、子育てを共有している。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

コメント

園庭遊びや生活面では、一人ひとりを見守り、その子に合った声掛けや援助がされていた。また、必要以上の関わりをすることなく、子どもの姿や言動から適切な対応がなされていた。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

コメント

保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持は徹底されている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができていますか。

コメント

必要に応じて園長、主幹が対応するなど適切な対応がされている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

コメント

看護師が中心となって情報提供し、必要に応じて回覧や園内研修の場を設けている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

コメント

計画的に訓練を実施し、定期的に委員会を開催し全職員に周知している。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

コメント

職員からの発見や気づきを園長へ報告するルートが確立され、速やかに対処している。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

コメント

玄関に大きな水槽があり、入館した際にホッと落ち着ける雰囲気を感じられた。
園内、各クラス共に清掃、物の整理整頓等もしっかりされていた。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

コメント

保育室は子どもの発達や興味、関心に応じたコーナーが配置されていたり、生活の動線を配慮して環境構成がなされている。子どもの姿に合わせて都度、担任間で話し合い、工夫している。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5歳児

- ・ 一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・ 共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

コメント

乳児：園庭や室内での遊びの様子や食事など個々のペースを大切に大人の言動も穏やかで安心できる環境であった。

幼児：園庭では子どもの遊びの変化に合わせて職員もクラスの枠を超えて流動的に対応していた。5歳児は行事に向けた活動であったが、2名の担任がそれぞれ保育者主導の個別指導をされていた。年長児の今の時期、子どもたちはそれぞれに遊びを見つけて楽しんでいたが、個別練習をしていない子どもたちも充実感が味わえるような保育者の働きかけや見守りは必要だと感じる。

【全体を通して】

コメント

若手職員の増加や時代とともに保育そのものが変わろうとしている現状で、歴史の長い園だけに継承すべきものと見直すべきものとの見極めに園長主任は難しさを感じている。そんな中、副主任の役割は大きく、試行錯誤しながらも現場とのパイプ役を担っている。

経験の長いパート職員にも業務改善の必要性を都度伝えつつ、若手職員はOJTでの学びをいかし、保育の楽しさが感じられるような声掛け関わりが必要だと感じる。

評価日 2024年 2月 6日

評価者 園名 市野与進こども園

役職 園長

氏名 鈴木勝子